



地域支援センター「しせい」



第3号 福島県立相馬支援学校地域支援センター通信【令和2年9月2日発行】

いよいよ2学期が始まり、元気な児童・生徒の姿が見られ、学校に活気が戻ってきました。引き続き、感染症対策をしながらも、充実した学習ができるよう取り組んでまいります。支援センター「しせい」では、今後もお気軽に相談いただいたり、情報発信をしたりしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。



きょうだい児(※)への支援について

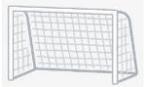
先日、外部機関との会議の中で、他の地域からきょうだい児への支援について話題に出されました。同じきょうだいでも、支援学校に通うお子さんを育てる中で多く手を掛けてきていて、きょうだい児は幼い頃からお父さんお母さんを手伝うなどしながら育ってきているかと思えます。出された話題では、そのような中、思春期や青年期の入り口で何らかの不適応行動が出てくる場合があるという内容でした。どんな対応ができるか協議され、その中では①関係機関と連携して支援する。②本人に対してはカウンセリングなど丁寧に行く。③「親の会」など入っていれば、家族、きょうだいの思いを共有する機会となる。など意見が出されました。なお、「きょうだい児の会」という組織は全国的にも少ないということでした。

本校の保護者の皆様も日頃から、子育ての中できょうだい児に対し、ちょっとした工夫をなさっているのではないのでしょうか。だからこそ本校では、「深刻なケース」につながっていないのだと思います。幼い頃であれば、一日1回ギュッと抱きしめ、「大事な子どもだよ。」と伝わるようにする、少し大きくなったら、お父さんやお母さんときょうだい児だけで出かける機会をもつ等あるかもしれません。おしゃれをして「ママとのデート。」と楽しみにしているというきょうだい児の話も聞いたこともあります。もし、我が家ではこんな工夫をしているということがあれば、ぜひ周囲の方にも広めていただければと思います。学校でも何かきょうだい児を支援する取り組みができないかと、父母と教師の会担当と話し合っておりますので、今後提案があると思います。

※支援学校に通っている子どもさんの兄弟・姉妹を、ここではきょうだい児とさせていただきます。



サッカーチームでコーチをしている本校中学部荒井先生より、関連する話をご紹介します。



いわき市と郡山市で知的障がい児のサッカーチームができたのは、今から15年前の頃です。私はチーム立ち上げ当初からいわき市のチームを担当しています。サッカーを始めた頃は、数名の参加者でのんびりとボールを蹴っていましたが、今では登録者45名まで増え、練習したことを発揮するため県内や県外で開催される大会に参加するまでになりました。登録者の中には、きょうだい児も含まれており、障がいの有無にかかわらず、「楽しく体を動かしたい」と思う人が集まって活動するチームになりました。

支援学校に通っている子どもたちが幼い時は、きょうだい児も幼く、サッカーを通して一緒に活動することで「共通の楽しみ」ができます。ゲームをする時、兄弟を同じチームにすることで自然に力を合わせ、ゲームに勝った時にはハイタッチをして共に喜び合う姿も見られました。練習が終わると、「先生、あのね、ぼく5歳になったよ。誕生日は、ケーキを食べたの。」と自分の話を楽しそうにしてくれるきょうだい児の姿もありました。親ではない大人が話を受け止めることも大切なことだったのだと考えます。「共通の楽しみ」として取り組んでいたサッカーですが、きょうだい児の多くは「もっとサッカーがうまくなりたい」という思いを抱き、地域のクラブチームに活動の場所を変えていきました。きょうだい児は、兄弟で始めたサッカーを通して「好きなこと・夢中になれること」を見付け、自分の居場所ができました。さて、自分の居場所ができたきょうだい児が大きくなり、ボランティアとして再びチームに合流してくれたこともありました。ゲームに負けて泣いていたきょうだい児の男の子が、「先生、次はどんな練習をしますか。」と頼りになるサポーターになってくれた時、大きな喜びを感じました。

現在、きょうだい児の他にも地域の方々が「一緒にサッカーを楽しむ仲間」として、練習に参加してくれています。「地域で共に学び共に生きる」を体現しているチームになったと思っています。

家庭内無視は、子どもにダメージ!?

以前参加しました教育相談研修で、東京成徳大学教授 田村節子先生の講話を伺い、「いじめ問題」についての話の中で興味深い情報がありましたのでお伝えします。（「いじめ問題」については、本校でも生徒指導部を中心に、小さな芽をも見だし、対応していこうと取り組んでいます。）

いじめの被害に遭った場合、しっかりケアされないと成人後に再燃し、精神面へ影響を及ぼすことがあるそうです。思春期は自分を作る時期で、周囲の目を気にする時期で、いじめられたことは自分に欠陥があるからではないかと思込んでしまうことがあります。その点をカウンセリングで修正し、別な見方ができるようにするといった対応が必要です。

いじめの加害について考えるとき、自分に降りかかることを恐れ傍観することも含まれます。身体的な攻撃以外にも、SNSでの攻撃、仲間外れ、無視等「関係性の攻撃」は被害者に大きなダメージを与えます。無視は存在の全否定なのです。あいさつ無視もいじめです。ここで先生から、「家庭内で無視していませんか。親がやっていることは悪いと思わなくなるのです。」と投げかけがありました。家族間でけんかをしたときに、しばらく口をきかない等ありがちだと思います。（家族を教員同士にも置き換えられます。）では、どうすればいいのでしょうか…。『私はこういう理由で怒っている。』と伝え、やりとりを見せ、仲直りの過程を見せる。いつの間にか仲直りしているというブラックボックスを作らないことが大事だ。」とのことでした。

「怒り」の感情はため込むと「恨み」になってしまいます。「怒り」は正しい感情ですので、口に出すことが大切です。「ネガティブな感情」はもっても良くて、もってダメだと思うとその負のエネルギーは自分へまたはSNSで相手に向けられてしまうこととなります。しっかりと耳を傾けるようにしていれば、「やだな。」「辛い。」「むかつく。」などのつぶやきが増えていきます。

そして、それは大人同士にも言えることだそうです。保護者同士、同僚同士、保護者と教師など様々な関係性において、信頼できる相手であれば、ためずに話すこと、お互いに聞き合うことができれば、結果的には子ども達のためになるかと思えます。



☆放課後等児童デイサービス事業所との情報交換会☆

1学期末に本校の児童・生徒が利用している事業所の担当の方との情報交換会を実施しました。個別の指導計画やサービス利用計画を基にしながら双方での取り組みや、それぞれの場所での様子について共通理解をもつための貴重な機会となりましたことを、ご報告いたします。

☆お気軽にご相談ください☆

しせい専用電話:080-7216-7351 (平日9時~16時)

担当:大和田 布佐子